

幼児集団における「けんか」についての一考察

— その3. 終結をめぐって —

菅沼和恵
(城西幼稚園)

I 研究目的

幼児にとって「けんか」は自己主張の結果生じるものであり、けんかを通して他の存在を意識し、相手にも考のあることを学んでいく。言いかえるならば、幼児は自己中心性から脱し、社会化へ向かう過程で自我の成熟のために、けんかは意味のあるものと考えられる。

アメリカの心理学者Willam・Jamesは、自我意識について物質我(material self)、社会我(social self)、精神我(spiritual self)(註1)の構成要素から成るものと考え、いずれも他人からの侵害を受けた場合、我々に感情や行爲をひき起こさせるものとなる。(註2)

そこで、このJamesの考え方に基づき1987年第40回保育学会では、幼児集団で発生したけんかを、原因、発生場所、対象について考え、低年齢児では自我の侵害として身体・物によるものが多く、年齢の上昇に伴って社会我、精神我へいく様相がみられた。

1988年第41回保育学会では、幼児集団内でのけんかで、二次、三次に進展したものに焦点をあて、けんかの発生-展開-終結の流れと、そこに働く力関係について考えた。

今回は、「けんか」の終結をめぐり、その様相を明らかにすることを目的とする。

II 方法

- 1) 対象児 東京都及び近畿都市の幼稚園児
- 2) 調査期間 1988年6月中旬、2週間
- 3) 調査方法 学生の協力により保育中に発生したけんかを自然観察法により記録する。(1学生3件)
短期大学保育科2年生、123名。
- 4) 調査数 3歳児---51件、4歳児---94件、5歳児---142件、異年齢児---32件。
計319件。(50件、けんかが3件に満たないものがあつたため)

III 調査結果

調査資料を筆者が、年齢別、項目に分け集計したものが下記の通りである。

1) 終結 <表1>

項目	年齢	3歳児	4歳児	5歳児	異年齢児
当事者		8件 16%	17件 18%	41件 29%	3件 9%
他児仲介		3 6%	9 9%	13 9%	6 19%
保育者介入		40 78%	68 72%	88 62%	23 72%
計		51	94	142	32

① 終結とけんかの対象 <表2>

年齢	3歳児	4歳児	5歳児	異年齢児
項目	当 他 保	当 他 保	当 他 保	当 他 保
1:1	5 3 34	8 5 47	19 6 44	0 3 10
1:1(n)	1 0 3	4 2 17	10 6 24	1 1 3
1:複数	2 0 2	2 2 4	9 2 16	2 2 8
複数:複数	0 0 1	3 0 0	2 0 4	0 0 2
計	8 3 40	17 9 68	40 14 88	3 6 23

② 終結とけんかの原因 <表3>

項目	当 他 保	当 他 保	当 他 保	当 他 保	
物質我	身体	1 0 5	2 1 9	2 1 5	0 1 3
	物	4 3 18	3 3 18	11 4 21	1 1 5
社会我	3 0 17	12 5 41	27 9 61	2 4 14	
精神我	0 0 0	0 0 0	0 0 1	0 0 1	
計	8 3 40	17 9 68	40 14 88	3 6 23	

2) 保育者の関わり <表4>

項目	年齢	3歳児	4歳児	5歳児	異年齢児
中止する		1 1%	5 5%	3 2%	1 3%
見ている		10 22%	29 31%	49 35%	10 31%
説 得		40 77%	60 64%	90 63%	21 66%
計		51	94	142	32

① 保育者の関わりとけんかの原因 <表5>

項目	中見説	中見説	中見説	中見説	
物質我	身体	0 1 5	1 2 9	0 2 6	1 1 2
	物	0 6 19	1 9 14	2 14 21	0 3 4
社会我	1 3 16	3 18 37	1 33 62	0 6 14	
精神我	0 0 0	0 0 0	0 0 1	0 0 1	
計	1 10 40	5 29 60	3 49 90	1 10 21	

② 保育者の関わりとけんかの対象 <表6>

項目	中見説	中見説	中見説	中見説
1:1	1 7 34	3 14 43	1 23 45	0 3 10
1:1(n)	0 1 3	1 8 14	1 14 25	0 2 3
1:複数	0 2 2	1 4 3	1 10 16	1 4 7
複数:複数	0 0 1	0 3 0	0 2 4	0 1 1
計	1 10 40	5 29 60	3 49 90	1 10 21

IV 考察

1) 終結 <表1参照>

各年齢とも、保育者の介入による終結が第1位となっている。しかし、年齢の上昇にしたがって保育者の介入が減少していることは、幼児が自分たちの手で終結していることに外ならない。特に異年齢児を除いて、各年齢で当事者による終結の件数が高いことに注目したい。

3) 保育者による解決内容

〈表7〉

項目	3歳児	4歳児	5歳児	異年齢児
物質我	15 39%	15 21%	11 12%	3 12%
手をつなぐ、脊をさす等	4	1	2	0
身体で攻撃しない	3	7	4	2
物を与える	8	7	5	1
社会我	16 41%	34 50%	57 66%	13 63%
口で言う	7	16	7	4
仲間に入れる	0	2	2	1
ルールを守る・きめる	1	1	10	2
順番・交代でする	3	5	11	1
独占しない	2	1	0	0
場の転換	3	8	17	3
状況を聞く	0	1	10	2
精神我	9 20%	19 29%	20 22%	8 25%
相手のことを考えさせる	9	19	20	8
計	40	68	88	24

4) 子ども同士(当事者,他児)による解決内容 〈表8〉

項目	3歳児	4歳児	5歳児	異年齢児
物質我	5 45%	5 19%	6 11%	1 13%
手をつなぐ、脊をさす等	1	0	2	1
身体で攻撃しない	0	1	3	0
物を与える	4	4	1	0
社会我	5 45%	14 54%	36 66%	7 87%
口で言う	2	2	5	0
仲間に入れる	0	0	0	4
ルールを守る・きめる	0	0	5	0
順番・交代でする	0	1	3	0
独占しない	0	2	0	0
場の転換	3	9	17	3
状況を聞く	0	0	6	0
精神我	1 10%	7 27%	12 23%	0 0%
相手のことを考える	1	7	12	0
計	11	26	54	8

① 終結とけんかの対象

〈表2〉

1:1対象のけんかは、各年齢とも高い。終結を見ると、幼児では3, 4, 5歳児とも当事者が終結させているものが多い。特に5歳児では、1:複数及び、複数:複数のものも当事者が終結している。

② 終結とけんかの原因

〈表3〉

幼児による終結で、3歳児では物の原因、4, 5歳児では社会我による原因が1位となっている。これは年齢が進むにつれて、物質我から社会我へ、また対象も複数へと広がっている。この事は社会性の発達を裏づけるものと言える。

2) 保育者の関わり

〈表4〉

けんかを中止する。が4歳児では5%、他の年齢では1~2%である。保育者が「見ている」のは各年

齢とも30%前後となっている。”説得する。が63%~77%と高くなっている。しかし、年齢が高くなるにつれて説得が減り、その分、見ているのが増えている。これは、子どもの成長に伴い、自分たちの問題を自分たちで考えさせようとしている保育者の姿勢がうかがわれる。

① 保育者の関わりと原因及び対象 〈表5・6〉

3歳児では、保育者の「見ている」のが多いのは、物が原因のもの、4, 5歳児、異年齢児では社会我の原因が多い。これは、説得でも同じ傾向がみられる。

けんかの対象と保育者の関わりは5歳児で、複数:複数の場合、当事者が終結しているエピソードのものは保育者は「見ている」であり、保育者が終結に関わった4件は説得している。このような具体的な場面での体験を通して、人とのつき合い方、自分の感情の処理の仕方等を学んでいくのである。

3) 保育者による解決内容(保育者の姿勢) 〈表7〉

・物質我にかかわるものとして、泣いている子の手をつなぐ、脊をさす、抱く等は、3歳児に高い。これは、低年齢児にとって気持ちを先ず安定させることの大切さを示唆するものであろう。

・社会我の中で「口で言う」が各年齢とも高い。保育者が、身体による表現よりも口で自分の気持ちや考えを相手に伝えるようにしていることの表われであろう。

・「状況を聞く」この事により、保育者にとっても状況がよく解かり、また当事者は、話すことにより、気持ちが整理され、状況も客観的に把握できる。物事を客観的に見、考えることができるように育ててほしいこの幼児期にあって、この事の意味と役割は大きい。

4) 子ども同士による解決内容 〈表8〉

保育者による解決内容と、同じ比率で、同じ傾向がみられる。保育者との関わりの中で、子どもは学んでいることを思われるのである。

V おわりに

現代社会において、機械化が進み、口を便利なりで済む事の多い状況の中で、それぞれが、自分の考えや気持ちを伝え合うことの大切さを感じると共に、保育者の役割と責任の大きいことを思われる。

幼児集団の中で発生する「けんか」を通して、子どもの育っていない部分に目を向け、それが育っていくように、機会を生かしていきたいと考えるものである。

註1. 『保育研究』 1981, 2-1 相川書房 P.50

註2. 『自己意識の心理学』 梶田敏一 東京大学出版会